

金沢城の主要な建造物の変遷

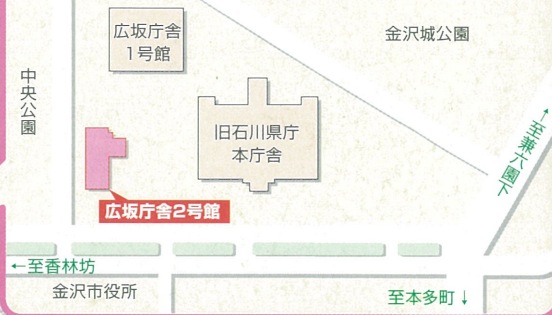
和 暦	天正 14~15	慶長 7	元和 8	寛永 20	宝暦 9	安永 元	天明 8	文化 5	安政 5	明治 4 14	平成 13
西 暦	1586~87	1602	1631 1643	1759 1772	1788	1808	1858	1871 1881	2001		
本 丸	天 守	創建 焼失	寛永の 大火	宝暦の 大火	文化の 大火						
	三階櫓	慶長8年1603 創建	再建	焼失							
	隅櫓等 (戌亥、丑寅、辰巳、申酉櫓等)	創建年代不明		焼失							
	附段三十間長屋	創建 元和~寛永		焼失		再建				現存	
二の丸	御 殿		創建	焼失 再建	焼失 再建	焼失 再建	焼失				
	菱櫓・五十間長屋・続櫓		創建	焼失	再建	焼失 再建	焼失			復元	
三の丸	石川門	創建年代不明		焼失	再建					現存	
	河北門	創建年代不明		焼失	再建					龍次解体?	
	南 門	創建年代不明		焼失	再建					龍次解体?	
北の丸	東照宮		創建	焼失せず						明治11年 1878 現在地に移る	

●金沢城は、1631年、1759年、1808年と大きな火災に見舞われ、建造物の姿もその度に変わりました。
上の図は、主な建造物の創建、被災、再建などの変遷を示したものです。

◆金沢城公園周辺MAP



金沢城研究調査室のご案内



平成16年3月 編集・発行
石川県教育委員会事務局文化財課
金 沢 城 研 究 調 査 室
〒920-0962 石川県金沢市広坂2-1-1
石川県広坂庁舎2号館
電話076-223-9696 FAX076-223-9697
E-mail kncastle@pref.ishikawa.lg.jp

金沢城を探る

建造物の変遷について

建造物の調査では、石川門、鶴丸倉庫など城内に現存する建造物の調査のほか、尾崎神社などの城外に移築された建造物の調査も進めています。
今回は、宝暦の大火前後での建造物の変化を中心に紹介します。



金沢城本丸には、天守や本丸御殿があり、城の中心であったが、1602年(慶長7)雷火により天守が焼失し、代わって三階櫓が建てられた。本丸御殿は、1620年(元和6)につづき、1631年(寛永8)に火災に遭い、再建を繰り返したが、寛永大火後に二の丸御殿が創建されてからは城の中心的役割を失った。
三階櫓は古い形式の望楼型で造られ、最上階には高欄が回され、外側に壁がほとんどない開放的な造りであったようであるが、宝暦の大火で焼失した後は、この三階櫓もついに再建されることがなかった。

金 沢 城 研 究 調 査 室

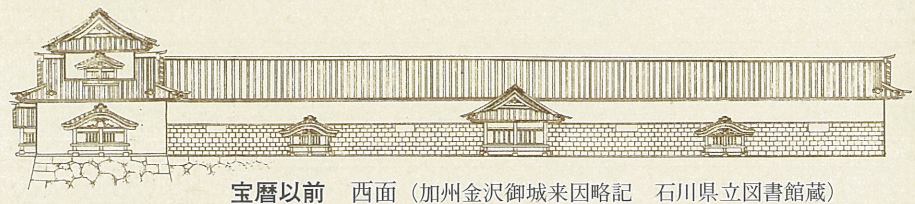
(石川県教育委員会事務局文化財課)

江戸時代、金沢城は三度の大きな火事に遭いました。中でも1759年(宝暦9)の大火は、金沢城の建造物に大きな被害を与え、建造物の構成や姿が大きく変わりました。

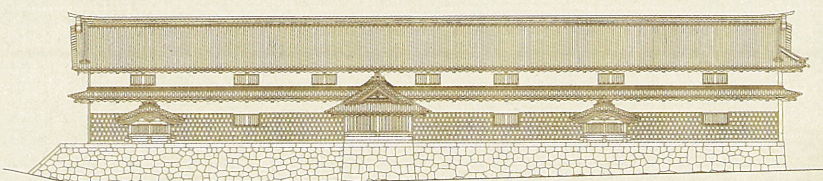
中央の絵図に記入した朱色部分が、宝暦の大火で焼失した範囲を示しています。

金沢城図(金沢市立玉川図書館蔵)に加筆

① 三十間長屋(重要文化財)



宝暦以前 西面(加州金沢御城来因略記 石川県立図書館蔵)

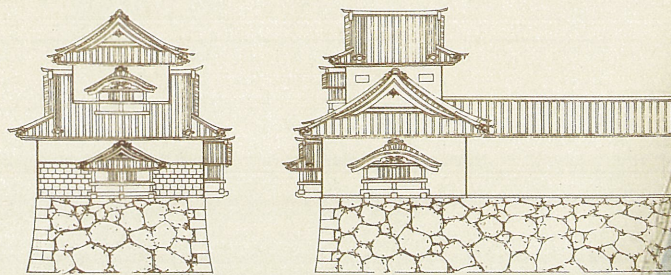


現在 西面(原図:文化庁)

宝暦大火以前は、屋根が一重の二階建てであったと推定されるが、大火から百年後の1858年(安政5)に、現在の二重二階で再建された。再建当初、初重は鉛瓦葺で、二階の屋根は桧瓦で葺かれた。昭和の修理では、当初の計画意図を尊重しすべて鉛瓦とした。

北側と南側とで端部の屋根の形状が異なっているが、以前は北側に続きの櫓があったためである。今年度の発掘調査で、三十間長屋の創建が、元和～寛永期であったことが判明した。

② 石川門(重要文化財)



菱櫓東面 宝暦以前 北面(加州金沢御城来因略記 石川県立図書館蔵)



石川門

名称は、石川郡の方に向けて開く門であることに由来し、表門、櫓門、櫓、続櫓が方形に広場を囲う典型的な枳形門である。鉛瓦・海鼠壁・唐破風の「出し(出窓状の部分)」を組合せた優雅な姿は、金沢城独特の意匠として知られる。

宝暦大火以前は、菱櫓の北面と続櫓は海鼠壁ではなく、菱櫓の「出し」も形と数が異なっている。また、現在は右折れて城内に入るが、初期の石川門では左折れてあったと推定されている。

③ 二の丸御殿

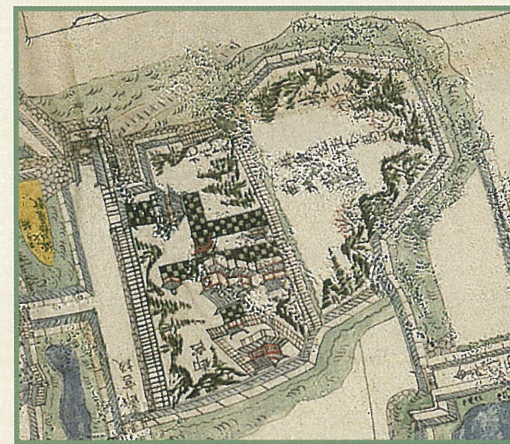
1631年(寛永8)の火災後創建され、元禄年間に増築されたが、宝暦・文化の火災による再建や藩主の交替などをきっかけに、何度も姿が変わった。

御殿には藩主の居間・執務部屋(中奥)や儀式用の大広間(竹の間)、年寄の詰所、御広式(子女の住居)などがあり、廃藩まで藩政の中枢機関として重要な役割を果たしたが、1881年(明治14)に全焼した。

④ 御宮の建造物

御宮は、1643年(寛永20)に創建された東照宮があった区画で、幕府御大工頭の本原義久が設計した華麗な社殿が建ち並んでいたが、1874年(明治7)に尾崎神社と改称した後、1878年(明治11)に城外の現在地に移された。

金沢城では、現存している最古の建造物である。



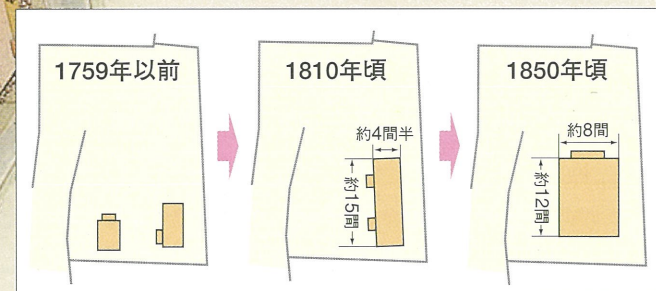
御宮(金沢城図)



尾崎神社本殿(重要文化財)

焼失範囲

⑤ 東の丸附段土蔵(鶴丸倉庫)



宝暦大火以前は、小型の土蔵2棟が並んでいた。大火後は、細長い大型の土蔵1棟になるが、1845～50年には、現在「鶴丸倉庫」と呼ばれている土蔵に建て替えられた。

鶴丸倉庫は、明治以降、軍隊によって改変を受けているが、基本構造は創建時のままであり、移築されずに残っている城郭土蔵は、全国的に見ても数が少ない。



鶴丸倉庫